



広報 みまた

発行・編集 北諸県郡三股町職員課 ☎52-1111 発行11月20日 No 240

町民憲章 (昭和39年1月4日制定)

わたくしどもは、歴史に輝き山河うるわしい三股に生を受け、先人の協和と忍耐による郷土建設の偉業を継ぎ、郷土愛と開拓精神をもって、ここに明るく豊かな、明日の町づくりのためにこの憲章を定めます。

- 1 常に新しい希望をもって郷土の開発につとめましょう。
- 1 教育を尊び青少年を健やかに育てましょう。
- 1 環境を清潔にし健康の増進につとめましょう。
- 1 生活を工夫しよりよい風習をつくりましょう。
- 1 力をあわせねばり強く住みよい町を築きましょう。

三股町の花 サツキ:鳥 ホオジロ:木 イチョウ



“行楽の秋”を満喫 ハイキング大会に1,000名

町職労青年・婦人部主催による恒例のハイキング大会が11月3日開かれ、幼児から87歳までの老若男女約1,000名がAコース(7km)とBコース(4km)に分かれて、快い汗を流しました。

平成元年
/ 11月号

町政功労者を表彰

文化賞1名、功労賞2名1団体、善行賞1名

平成元年度表彰式

11月3日開催



前列(右から)南さん、鈴木さん、小倉さん、桑畑町長
轟木農産加工グループ代表轟木さん、上原さん
中列 轟木農産加工グループ会員

本町の発展に貢献された方々を顕彰する平成元年度表彰式が、十一月三日の「文化の日」に中央公民館で開かれ、文化賞で一名、功労賞で二名一団体、善行賞で一名が表彰を受けられました。表彰式には町三役をはじめ町議会議員、教育委員、地区公民館長など約八十名が参列し、全員で町民憲章を朗読した後、受賞者の功績紹介と表彰が行われました。その後次々に祝辞が述べられ、最後に受賞者を代表して鈴木重孝氏(功労賞)が「衆ある賞をいただき、たいへん光栄です。……本日この感激をひとつの契機として、町勢発展のため微力ながら尽力したい」とお礼を述べられました。なお、受賞者の氏名及び功績は次のとおりです。

文化賞(産業部門)

小倉 力氏(57)

氏は、昭和二十六年から十五年間大弓作りの修業を積まれた後、昭和四十一年に小倉業奉弓製作所を開業、以来日本古来の伝統を受け継いで大弓作りに専念されています。氏の弓作りの技法・技術は県内外から高い評価を受けており、昭和五十九年には宮崎県伝統工芸士に認定されるなど本町の産業・文化の進展に尽くされた功績は誠に大きなものがあります。

功労賞(行政部門)

鈴木重孝氏(74)

氏は、永年にわたり教育委員として活躍されましたが、特に昭和五十七年十月から五年六ヶ月間は教育委員長の要職にあつて、大規模校三股小学校の分離事業を積極的に推進されるなど本町の教育振興に多大の貢献されました。また、永年にわたり梶山児童館において書道教室を開設され、児童の書の指導や健全育成にも尽力されました。



受賞者を代表して謝辞を述べられる鈴木さん

功労賞(産業部門)

南 正次氏(61)

氏は、種豚改良に努められる中で、県畜産共進会に昭和五十八年から七年連続して出場され、チャンピオンを三回、グランドチャンピオンを二回獲得されています。特にグランドチャンピオンは、昨年と今年の二年連続受賞という県畜産共進会史上初の快挙であり、県内養豚農家の頂点としての地位を確立され、本町の養豚技術の向上や畜産振興に多大の貢献をされました。

善行賞

上原トミ子氏(66)

氏は、都城農業共済組合畜診療所の獣医師として永年ご活躍された夫君、故上原豊作氏の意志を継いで本町畜産振興のため多額の寄付をされました。

功労賞(産業部門)

轟木農産加工
生活改善グループ

同グループは昭和五十五年の結成以来、地場農産物の加工を通して農村の活性化に努められていきます。同グループの活動により、他の婦人グループの中にも婦人の立場での「まちづくり」意識が芽生えており、婦人の社会参加意識の高揚・婦人の地位向上に果たした役割は大きなものがあります。

文化祭を盛大に開催

11月3日～5日

商品即売会や芸能発表会も



商品展示即売会



文化祭展示品

町文化祭は十一月三日から五日までの三日間、勤労者体育センターを中心会場に開かれました。同センターには園児や小中学生、婦人、老人などの各種作品約二千点が展示され、訪れた人たちは熱



芸能発表会

心に見入っていました。また武道体育館では商工会による各種商品展示即売会、町体育館では文化協会主催の芸能発表会、各地区では菊花展などが盛大に催されました。



菊花展示会

町民体育大会 を開催 (10月22日)



保育園児の
アトラクション



町制40周年
を記念して
「40」を描く



選手
宣誓



炬火
入場



入場
行進



ムカデ競争



依運搬



一心
同体



準備
体操

各種 リレー



←人生リレー
2地区がトップでゴール



夫婦な
かよく



力を
合わせて



感謝状
を受ける
大崎前体協長



第2地区に優勝旗



持久
走

3,000m



ねらいを
定めて



ゆっくり
急いで



ジャンボ
ゲ
ル-ホト-

子どもの声を聞く会

町教育委員会と青少年育成町民会議（上村辰己会長）が主催して、十一月三日子どもの声を聞く会が中央公民館で開かれました。聞く会では、小学生六名と中学生二名が日頃考えていることや、自分の将来についての意見を力強く発表しました。

今月号と来月号で子どもたちの声を紹介します。



三股小6年 原田 浩

ぼくたちの郷土、三股町は四方を山に囲まれ、空気、川、風景などの自然が豊かで、気候にもぐまれています。ぼくにとって、これほど、すばらしい郷土は他にありません。

この豊かな自然のめぐみを利用していろいろなせつを作ったかどうかどうだろうか。それに人の心が楽しくなるような音楽などのできるせつもあったらとおもいます。それは、一人一人が楽しく生活できれば、人をいじめたりするのもしやにならず、いじめられる人がへつていくからです。

それから下水処理の問題があります。三股町には下水道が通っていないので、下水道を通してほしいと思います。

ぼくの家の近くに小川がありま

す。昔は、その川には魚がいて、夏は泳げるほどだったそうです。しかし、今では魚もすめないほど、空きかんや下水の水などできたなくなり泳ぐなんて考えられませんが、この小川のような出来事が山田川でもおこつたら、見られないほどきたなくなってしまう。だから、ぼくの家の近くの小川のように山田川がならぬようにも下水道を作してほしい。空きかんも、みんなの心がけ一つで一つもなくなるはずです。空きかんの他にちりも拾うといいと思います。ごみを拾えば拾うほど人の心はきれいになっていきます。そのうえ景色まできれいになっていく。人の心がきれいになればなるほど、よいことをもつとすたくなっていくのではないのでしょうか。そのうえ人に対しても、親切になっていくのではないかと思ひます。

三股町には、多くの木がありまして。ぼくたちの三股小にも木が多い。木をたいせつにできるのなら、人の心や景色を大切にすることもできるのではないのでしょうか。それは、たんに木だといつても、大

きくふたり、花や葉をつけるのは人と同様、生命がやどっているからです。景色の中の草や土、水にも生命がやどっているのです。木を注意したくてもできないので、注意しなくてはならないのです。だから、ぼくたちが注意していかなければ、木は永久に殺されていくでしょう。木や景色を大切にすることは、人の心をいざなうことです。三股町のすばらしい景色でぼくが考えたのを四季別に表すと、春は上米公園のさくらとつじヶ丘のつじです。さくらの桃色がうかんで見えたり、つじのむらさき色があざやかに見えたりきれいです。夏は長田きよ、暑さにすずしさが交わってきもちがよい。秋は木の紅葉、色あざやかに冬はたくをむかえます。冬は、三股町にあるわけではないが霧島山の雪景色でしょう。雲の上に山がういていのように見えきれいです。この他にもよい景色があるかもしれませんが、やはり三股町には、ぼくたちにとってこわしてはいけな

い景色があるのです。この風景をぼくたちは今まで大切にしていたのだから、これから人たちにきずつけられたりこわされたり、ひどいときには、すつかりよいところがなくなったりしないように、

児童・生徒8名が意見を

発表

していると、教室の設備が整っていて、大変使いやすいということ。たとえば、OHPなどの機械を使って勉強するときに、スクリーンを出してOHPをセツトするだけです。黒板は、上下に動き、先生が使われる時も、ぼくたちが使う時もとても便利で見やすいです。

ぼくたちは、このようなりつぱな校舎で勉強ができるのが、とてもうれしいです。感謝しています。だからこそ、一生けんめい勉強しないといけないなあと思ひます。

しかし、せっかくりつぱな校舎があるのに、人数が少ないために、十分活用されない教室があるというところ、ふくしき学級があるというところが残念です。おとしまてふくしき学級が二学級あったのが、去年から一学級になりました。今年も二、三年生がふくしきです。先生も、二、三年生も大変でしょう。人数が多いと、運動会にもぎやかで楽しくなると思ひます。いろいろな記録会も、全部のプログラムに出られると思ひます。ふくしき学級が早くなくなつてほしいです。

でも、人数が少ないために水泳大会や陸上記録会など、五、六年生全員が出られます。音楽会にも、全校出られます。これは、人数が

少ないからできることだと思ひます。

これからの学校生活でのぼしていききたいことは、あいさつと協力です。朝、集団登校で学校に行きます。ついたら、校門に立って、みんな、

「おはようございます。今日も一日よろしくお願ひします。」
と校舎に向かってあいさつをします。帰るも校門に立って、「さようなら。今日も一日ありがとうございました。明日もよろしくお願ひします。」

と声をかけます。最初始めたころは、全部の班はせず、一部の班だけだったのに、今では全部の班がするようになりました。このことは、長田小のじまんできるところです。

協力は、プールそうじなどの時、人数が少ないためみんなで協力しないとできません。みんなで集まって、かけ声をかけながらきれいにしていきます。みんなでやるので、きれいになり、友達関係もよくなります。

ほかにも、夏の暑い日などは、全校が外にある緑いん教室に集まって給食を食べます。一つの机に、一学年一人ずつ六人と先生を入れて七人で食べます。みんなで話し合つて食べたり、外のしんせんを

きくふたり、花や葉をつけるのは人と同様、生命がやどっているからです。景色の中の草や土、水にも生命がやどっているのです。木を注意したくてもできないので、注意しなくてはならないのです。だから、ぼくたちが注意していかなければ、木は永久に殺されていくでしょう。木や景色を大切にすることは、人の心をいざなうことです。三股町のすばらしい景色でぼくが考えたのを四季別に表すと、春は上米公園のさくらとつじヶ丘のつじです。さくらの桃色がうかんで見えたり、つじのむらさき色があざやかに見えたりきれいです。夏は長田きよ、暑さにすずしさが交わってきもちがよい。秋は木の紅葉、色あざやかに冬はたくをむかえます。冬は、三股町にあるわけではないが霧島山の雪景色でしょう。雲の上に山がういていのように見えきれいです。この他にもよい景色があるかもしれませんが、やはり三股町には、ぼくたちにとってこわしてはいけな



長田小6年 馬渡 誠一

ぼくは、こんな学校生活をおくりたい

今、長田小学校の児童数は六十五名です。人数は少ないけど少ないためにできるということもありますが、しかし、残念なところもあります。これからの学校生活は、どのようにしていけばいいのでしょうか。

まず校舎の説明をします。今の校舎は鉄筋コンクリートの二階建ての校舎で、昭和五十七年に建てられました。この校舎の気に入

私は、こんな郷土にしたい



新報テレビで、青島海岸のごみやあきかんを拾っている姿が報道されています。国道にそって、あきかんを拾い集めている学校もありました。私の学校でも、今年学年別にわかれて地区のあきかん集めをしました。たくさんあきかんが集められました。

私の学校では、月曜日の朝、運動場をまわつてみると必ずといっていいくらいたくさんのおかしのくずが捨ててあります。「どうしてこのようにあきかんを、ごみをばいと捨てるのでしょうか。」

きれいな山、清らかな流れをもつた二三股町には、しばえ公園、長田峡、上米公園などのすばらしい観光地があります。しかし、このようにごみをばいと捨てていると、あのすばらしい観光地や、各地区はごみだらけになってしまふのではないのでしょうか。だれでも自分の家の中では、食べた物をばいと捨てずに、必ず



ごみ箱に捨てるでしょう。しかし、ちよつと外にでるとすぐに捨ててしまします。自分の家はきれいにしたいが、みんな使つてくるところは、ごみを捨てても平気なのです。自分の住んでいる郷土をこみだけにすると、外国からきた人たちにわられます。自分だけよければ、人がどんなに困ろうと平気な人が日本には多いのではないのでしょうか。

美しい郷土にするためには、ごみを捨てる前によく考えることだと思います。(これをここに捨てたら、だが、どんないやな思いをするかな)とか、(ここに、このあきかたを捨てたら見た感じが悪いよ)とか、(なんか、きたならしいな)など捨ててしまおうと考えた時に、ちよつとそう思いつけばよいのではないかと思います。

そして、そう考えたら、ここに捨てちゃいけない。家に持って帰って捨てよう。と、素直に考え、実行すればいいのだと思います。そうすれば、ごみのないともきれいな町になって、心もいいことになるといふ満足感でいっぱいになると思います。

はいても、捨てる人はいません。私はこの前、妹と二人で田上地区のあきかたにごみを拾いました。とてもきれいなあきかたやごみがおちていて、拾ったあきかたは全部で百六十二個、ごみは買ひ物ぶくろに一ふくろ拾いました。また、こんなこともありました。友達と二人で帰っていた時、川の方を見たら、ざんげんなどが捨ててありました。その時は、ふくろを持っていかなかったの、これ以上流れないためにすみの方にせよとおきましたが、あ、あ、この川にはどじょうとかいるのに、どうして捨ててあるのに早く気づいた人が拾わないのかな、とがっかりしました。

私は捨てないことも大切だけど、捨ててあるのを捨てることも、きれいな三股町をきずくために必要なことだと思います。これから私は、捨てないしながら捨てるようにも心がけたいと思います。

ごみ一つなく、きれいな三股町をつくりあげるのが、私たちのつとめであると思います。きれいな郷土、美しい花が咲きみだれているわが郷土、ごみ一つおちていないわが町、自分の郷土をほこれるようにするために、私は今日からごみを捨てない、ごみを拾う小学生になりたいと思います。



だより (第41号)

学年招待



読書週間に因んで、町内小学校一年生全児童(三三三名)を学校毎に招いて、豊高を図書をとおして子供との結びつきを広めました。

としよかんには本がいっぱい

みやむら小 一年
おきき たまよ
バスにのつて、ちよつとしよかんまでおべんきょうにいきました。

わたしは、おあきさんとおにさんとおとうと、まいつき三がいぐらいて、本をよんだり、おうちにかりてかえつてよんだりしているのよわかつたよ。いま、三十きつかりよんであります。まだよみたい本がいっぱいあります。がつこうのとしよかんより、どうしてたくさんあるのかなとおもいます。本をたくさんよんで、としよかんのおしごとをする人になりたいです。

かつおか小 一年
しおた ともみ
一ねんせいみんで、としよかんへいきました。
よんだことのないほんがたくさんありました。
わたしは、8がつからほんをかりました。
おじさんがわたしのことをはなしました。
「しおたさんは、8がつから16きつもよんでいます」
さつもとよんでいます」
といいました。
かぞえてなかつたので、びつくりしました。
わたしは、これからも、いっばいよみたいとおもいます。

ぼくは、こんな人になりたい



勝岡小6年 児 玉 貴 史

今地球が、破かいされつつあります。木はかれ、川は魚がいなくなり、動物の何種類かが絶滅の危機にさらされています。すべての原因は、人間です。人間、つまり人類は、いつも自然とくらべてきました。人類は、自然のめぐみを受けて生きています。その命の源を自分の手でこわそうとしていくのです。

人類は、多くの経験から知識を生みだし、その知識の中から文化を作り出しました。その文化は、生活のためにとても役どころ、宇宙まで手をのばしました。人工衛星、ロケット、スペースシャトルなどがその文化のあらわれといえます。人々はこのよう不思議なものに夢中になり、自然をわすれてしまいい」というおそろしい結果を生みました。文化が発達することはとてもいいことです。しかし、それが害になつてはいけません。

りません。この技術をこわされた自然をなおすのにつかえないでしようか。

今、オゾン層がフロンガスに破かいされています。そこで世界の科学者たちが、オゾン層をこわさないガスを作つたそうです。このようなことができて、自然保護ができなはずがありません。

今、世界がすこしずつ世界の緑を、保護しようとして動きています。これは、世界が自然を守るの、将来の子孫たちへのため、将来の世界のためと気づき始めていく証です。

ぼくたちにもなにかできないでしょうか。あきかた拾いもその一つです。日本の大きな文化はなにをすればよいでしょうか。今のぼ

例としてとりあげられるのが自動車です。自動車は、最大の交通機関として生活にかかせない物となつてきました。旅行を電車にするにしても、駅まで自動車です。こののが現代は普通です。しかしこの便利な自動車も、「はいい気ガス」により自然破かいをすすめていきます。

自動車のための公害はまだあります。北アルプスの林道もその被害にあつています。大自然をどんどんこわしていき、アスファルトでかためた後、自動車が通り、そのはいい気ガスで森がかれていきます。人間のために、自分たちのためだけにこの大自然をこわしていいものでしょうか。

まだ三股町には、多くの森が残っています。その森の一つに、勝岡小の、緑ヶ丘があります。小さな森ですが、みんながそこで本を読んだり、給食を食べたりしています。小さな森でもこんなに役だつています。三股町の緑もこのように、みんなが楽しめる、いいの場にしたとしても、この森を残しておかなければなりません。この三股町の緑を、いや、世界の緑を守る方法はないのでしょうか。文化は、自然を破かいするためだけではあ

くには、なにをすればいいかわかりません。しかし、わからないままではいけない。ぼくは、将来このような緑を保護する科学者になりたい。そうして再び、この世界を緑の楽園にし、動物やその他の生き物が楽しくらせる明るい、平和な世界にしたいです。これが、人類最高の夢ではないでしょうか。この気がたを夢ではなく、本当にするの、人類のやく目ではないでしょうか。

むずかしいねがいです。しかし努力が必要です。毎日すこしずつでもよい方へ進むよかんばりです。未来の三股町のために、そして、未来の世界のために。

新刊図書のお知らせ

町立図書館では、次の図書を手に入れました。ぜひ、ご利用ください。

- | | |
|----------------|----------|
| 書名 | 著者名 |
| (一般向き) | |
| ばらに贈る本 | 鈴木 省三 |
| 十津川警部の対決 | 西村京太郎 |
| 男ごころ | 丸谷 才一 |
| 高円寺純情商店街 | ねじめ正一 |
| 沖田総司を歩く | 大路 和子 |
| 詩城の旅びと | 松本 清張 |
| ふるさとまつり歳時記 | 宮崎県 |
| (小・中学生向き) | |
| 砂漠の鏡(地中海文明物語一) | L・N・ラヴォル |
| クレオパトラの真珠 | 書名 |
| クレタ島の曲芸師 | 著者名 |
| (地中海文明物語二) | |
| (地中海文明物語三) | |
| (地中海文明物語四) | |
| (地中海文明物語五) | |
| G・ボルドリーニ | |
| 太陽のお守り | |
| (地中海文明物語五) | |
| M・マンソニー | |



家庭教育力の向上をめざして 大会宣言 (PTA 研究大会)

心豊かで創造性に富んだたくま
しい子供を育てるPTA活動を考
えようをテーマに、町PTA研究
大会が十一月五日、宮村小学校で
開催されました。
研究大会には町内各小中学校の
PTA会員約四百名が参加。体育
館でPTA活動や子供の健全育成
に貢献のあった七名が表彰され
た。宮崎市教育相談員の矢野一弥
氏が「PTAと子供の指導」と題
して講演を行いました。
その後、七つの分団会に分かれ
て研究発表が行われた後、「家庭
の日の推進と定着を図り、家庭教
育力の向上をめざそう」と大会宣
言がなされました。



商工会婦人部が ミニバレーで交流

都北商工会婦人部連絡協議会
(会長 池田加代子) が主催する
第一回ミニバレーボール大会は、
十月二十九日、武道体育館で開か
れました。
大会には、都城市及び北諸県郡
の七商工会の婦人部からそれぞれ
二チーム、計十四チームが参加。
本町商工会婦人部副会長の高山京
子さんが力強く選手宣誓した後、
四コートに分かれて熱戦が繰り広
げられました。

男女共に宮村小が優勝

(子どもすもう大会)

子ども会育成連絡協議会(会長
崎田幸忠)が主催する第一回子ど
中央公民館前の広場で盛大に開か
れました。
大会には十六の子ども会から約
六百名の子供たちが参加。広場に
土俵四面を設け、男女別に団体戦、
個人戦が行われました。
結果は次のとおり(優勝のみ)
◎団体戦
(男子)宮村小A(女子)宮村小A
◎個人戦(男子の部)(女子の部)
一年生 森 和也 青石麗永
二年生 大重大蔵 田口奈津美
三年生 大村孝一 中原陽子



四年生 本村孝二 時任里枝
五年生 上原久幸 有馬里香
六年生 外山裕貴 萩原理栄

84チームで熱戦 国保杯ミニバレー

壮年層を対象とした国民健康保
險杯ミニバレーボールの夜間リ
グ戦が、八月二十一日から十月十
四日まで、武道体育館を中心会場
として開催されました。
これは町民の健康を増進し、年
々増え続ける医療費を抑制しよう
と開いたもの。国保財政の健全化
がねらい。
リーグ戦には八十四チーム約六
百名が参加し、連夜にわたって熱
戦が展開されました。結果は次



とおり(優勝のみ)
●三十九歳以下 土曜クラブ
●四十歳代 大鷲果ミニ
●五十歳以上 上新ミニ



川をきれいにしよう

キャラバン隊が来町

流城市町村が一致協力して大
川をきれいにしようと十月三十日、
大淀川水質汚濁防止連絡協議会の
キャラバン隊が来町しました。
午前十一時二十分、キャラバン
隊の一行三十名が車四台を連ねて
役場に到着し、「水はいろいろな面
で私たちの生活を支えています。
みんなの力できれいな川にしませ
よう」と協力を要請。その後、イ
カダクインから花東やチランが
贈られました。
私たちが流域住民の一人として
河川の浄化活動に参加し、キラキ
ラ光る清流を呼びもどしたいもの
です。

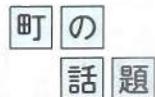


林業技能 オリンピック

第二回林業技能オリンピックが
十月二十二日、椎葉村総合グラウ
ンドで開かれ、本町林研グループ
の活躍で北諸地区が総合優勝しま
した。
オリンピックは、林業技術の研
さんと継承を目的に開かれたもの
で、チェンソーの目立てや椎茸の
駒打ち、丸太切り、丸太投げなど
八種目に延べ三百二十名が出場し、
日頃鍛えた腕を競いました。

国民年金30周年 記念品を贈呈

国民年金法が施行されて
今年で三十周年を迎えるの
を記念して、このほど上米
の上村シモさん(83)に県から
記念品が贈られました。
国民年金は昭和三十四年
十一月一日に発足して以来、
老後の生活安定を図る上で
不可欠の制度として広く国
民の間に定着しています。



本町の年金受給者は、昭和六十
三年度現在約二千二百人で、上村さ
んはその最高齢者となっています。

赤ちゃんの土俵入り

赤ちゃんの健やかな成長を祈願
する土俵入りが十一月七日、宮村
の御年神社で行われました。
赤ちゃんの土俵入りは、秋祭り
を盛り上げようと昨年から取り入
れたもので、今年も町内外から二
歳未満の赤ちゃん三十名以上が参
加。かつて青年団相撲で勇名をと
どろかせた中原康美さん(60)四名
の力士に一人ずつ抱かれて土俵入
りを行い、見物人の祝福を受けて
いました。
その後、保育園児や小学生の相
撲大会が盛大に行われました。



おしらせ



第41回人権週間

十二月四日～十日

今年も十二月四日から人権週間が始まります。

人権週間は、一九四八年十二月十日、国連総会において世界人権宣言が採択されましたので、この日を記念して毎年十二月十日を「人権デー」と定め、世界各国が人権尊重、擁護することを誓うことにしたものです。

我が国でも十二月四日から十日までの一週間を「人権週間」として広く国民に基本的な人権思想の普及と人権意識の高揚を呼びかけています。

こんな時には
人権擁護委員に

人権が侵されたり、侵されるおそれがあるとき、いじめや体罰その他家庭内の問題、借地、借家登記、金銭消費貸借問題などいろいろなお困りの方は、お近くの人権擁護委員に気軽にご相談ください。

◎三股町の人権擁護委員

- 大字榊山四二八番地 桑畑 應 五二二五二九五
- 大字榊山四三五番地七 草留千枝子 五二一四〇九九
- 大字藪池一四七六番地 福重美義 五二一〇九〇
- 大字宮村一四九番地二 隈元喜一 五二一四〇二九

郵便局からお願い



郵便受箱の設置にご協力ください

年末年始には、年賀状をはじめたくさん郵便が差し出されます。配達には十分気をつけています。配達は大切な郵便物を間違えずに配

無料人権相談所

とき 12月8日(金)
10時～15時

ところ 三股町
老人福祉センター

します。

なお、ご近所に同姓の方がおられる場合など配達に困ることもありますので、郵便受箱や表札にはご家族や同居人の方全員のお名前をお書きくださるようお願いいたします。

詳しいことは、三股郵便局(五二一〇四二)まで。

愛の献血



次のとおり献血にご協力いただきました。

○十月三日

都城東高等学校 三二八名
誠にありがとうございます。
今後とも皆様のあたたかいご協力をよろしく願います。

愛のご寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明け寄付を次の通りいただきました。故人のご冥福をお祈りいたしますと共に、社会福祉発展のために有意義にご利用させていただきました。誠にありがとうございます。
平成元年十月一日から
平成元年十月三十一日まで

寄付者	続柄	故人名	地区	金額
南畑 光雄	妻	シヅミ	57	500円
佐藤 勝美	母	アヤ子	73	上 新二万円
森 清信	妻	フミ	83	5000円
鶴倉 正広	母	エイ	83	5000円
谷口 威翁	母	セツ	79	5000円
大盛恵子	夫	静則	82	下 新三万円
上水 勇	父	休助	82	中 米三万円
山根 猛男	父	徳太郎	80	高畑二万円
福川 勲	母	チル	85	飯屋二万円
山元 幸一	母	シヅ	74	山王原三万円

三股町の人口

平成元年11月1日現在

男	9,691人	出生	19人
女	10,808人	死亡	10人
計	20,499人	転入	97人
前月比	+26人	転出	80人
世帯数	6,709戸		